

# 的工芸品

古くから受け継がれる伝統的な手法により、職人の手で一つ一つ丁寧に作り上げられる伝統的工芸品。県内の伝統的工芸品や後継者の確保・育成に向けた県の取り組みなどを紹介します。

## 伝統的工芸品とは

国指定伝統的工芸品とは、昭和49年に制定された「伝統的工芸品産業の振興に関する法律（通称「伝産法」）」に基づき、経済産業大臣が指定した工芸品をいいます。また、地域に根付いた伝統的工芸品を振興するため、「福島県指定伝統的工芸品」として県が指定した工芸品もあります。

### 「国の指定要件」

- ① 主として日常生活の用に供されるものであること。
- ② その製造過程の主要部分が手工業的であること。
- ③ 伝統的な技術又は技法により製造されるものであること。
- ④ 伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されるものであること。
- ⑤ 一定の地域において少ない数のものがその製造を行い、またはその製造

に従事しているものであること。

※「福島県指定伝統的工芸品」は国の⑤（規模要件）を除いたものとなっております。小規模の伝統的工芸品も指定しています。

### 県内には

### どんなものがあるの？

県内には、漆器、陶磁器、木工品、織物、和紙など40品目の伝統的工芸品があります。次に掲載している工芸品のうち、皆さんはどれくらい知っていますか？

## 国指定伝統的工芸品

（※左記5品目は県指定伝統的工芸品の指定も受けています。）



大堀相馬焼  
(浪江町)



会津塗  
(会津若松市・喜多方市)



会津本郷焼  
(会津美里町)



奥会津編み組細工  
(三島町)



奥会津昭和からむし織  
(昭和村)

## 浜通りの県指定伝統的工芸品



いわき和紙  
(いわき市)



いわき絵のぼり  
(いわき市)



日本甲冑  
(相馬市)



相馬駒焼  
(相馬市)

## 伝統工芸・地場産業の後継者確保に向けた県の取り組みは？

県では、県内外で伝統工芸・地場産業について学ぶ学生などを対象とした「福島県クリエイター育成インターンシップ」を実施しています。

県内事業者とのマッチングにより決定した受け入れ先において、3～14日間の期間で、各事業者が組んだカリキュラムに基づき技術交流や販売などを行います。経験を通して、クリエイターとしてのスキルアップを目指すとともに、学生などと県内事業者とのつながりを作ることで、後継者の確保を図っています。

インターンシップは、令和元年度からスタートし、これまで受け入れた研修生は57人にのぼります。県では、今後も後継者の確保や育成に取り組んでいきます。

圏県庁県産品振興戦略課 ☎024(521)7296



会津木綿を製造している株式会社はらっぱ (会津若松市) でのインターンシップの様子



会津地方の県指定伝統的工芸品



会津桐下駄  
(喜多方市)



会津慶山焼  
(会津若松市)



起上り小法師  
(会津若松市)



海老根伝統手漉和紙  
(郡山市)



獅子頭  
(二本松市)



土湯伝統こけし  
(福島市)



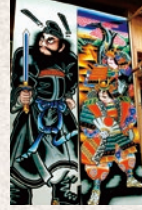
総桐箆筒  
(三島町・会津若松市・会津美里町)



会津唐人凧  
(会津若松市)



会津天神  
(会津若松市)



須賀川絵織  
(須賀川市)



仏壇  
(二本松市)



福島だるま  
(福島市)



田島万古焼  
(南会津町)



会津木綿  
(会津若松市)



赤ペコ  
(会津若松市)



江戸小紋  
(須賀川市)



伝統岳こけし  
(二本松市)



上川崎和紙  
(二本松市)



つる細工  
(只見町)



初音  
(会津若松市)



風車  
(会津若松市)



金山漆ろうそく  
(金山町)



雄国の根まがり竹細工  
(喜多方市)



会津絵蠟燭  
(会津若松市)



檜枝岐の山人工芸品  
(檜枝岐村)

HP 福島の伝統的工芸品 検索

中通りの県指定伝統的工芸品



須賀川絵織  
(須賀川市)



仏壇  
(二本松市)



福島だるま  
(福島市)



田島万古焼  
(南会津町)



会津木綿  
(会津若松市)



赤ペコ  
(会津若松市)



江戸小紋  
(須賀川市)



伝統岳こけし  
(二本松市)



上川崎和紙  
(二本松市)



つる細工  
(只見町)



初音  
(会津若松市)



風車  
(会津若松市)



金山漆ろうそく  
(金山町)



雄国の根まがり竹細工  
(喜多方市)



会津絵蠟燭  
(会津若松市)



檜枝岐の山人工芸品  
(檜枝岐村)

HP 福島の伝統的工芸品 検索

知事メッセージ  
Message

「伝統」を  
次世代へつなぐ

福島県知事 内堀 雅雄



県内には、長い歴史と文化に培われた漆器や陶器等の伝統的工芸品が数多くありますが、近年は、安価な代替商品の増加や後継者不足など、多くの課題を抱えています。

県では、ものづくり人材の育成講座である「ふくしまクリエティブクラフトアカデミー」の開講や、学生等を対象とした「クリエーター育成インターンシップ」の実施により、伝統的工芸品の未来を担う人材の確保・育成を進めています。

今後、事業者と連携しながら、県内にあるすばらしい伝統的工芸品を次世代に伝えていく取組を進めてまいります。



## 伝統を未来へつなぐ若手職人たち

### 大堀相馬焼

浪江町大堀地区に伝わる焼き物で、青ひび、二重焼き、駒の絵などの特徴がある。



ろくろ職人

よしだ なおひろ  
吉田 直弘さん (空想窯)

伝統と革新の融合により  
生み出す新たな「大堀相馬焼」

京都美術工芸大学在学中のインターンシップ説明会で大堀相馬焼に触れ、出身地の関西地方ではほとんどない二重焼きという技法にまず惹かれました。実際、インターンシップで活動していく中で、機械に負けない速さでろくろを操る職人の技術の高さに憧れ、大堀相馬焼職人を目指す浪江町の地域おこし協力隊に応募して、関西から遠く離れた福島県にやってきました。

始めた頃は、1日20個作るのがやっとでしたが、経験を積み重ね、今では

### 二本松万古焼

土の風合いが感じられる焼物で、手ひねり型くずし製法により作られる急須や湯呑みが代表的。



有限会社井上窯

いのうえ まい  
井上 舞さん

唯一の窯元として、  
守りたい伝統がある。



二本松万古焼の唯一の窯元である井上窯の後継者として、日々製作に励んでいます。二本松万古焼は、焼しめ(釉薬を施さない焼成方法)の土の風合いが感じられる焼物で、全国的にも珍しい木の型を用いた伝統的製法「手ひねり型くずし」による急須や湯呑みが代表的作品です。模様の特徴に梅や指跡などがあります。

私の作品では二本松万古焼の伝統を基に、自分で粘土からさまざまな陶印を創作し、その陶印で模様を付けた器やアク

### 奥会津昭和からむし織

昭和村で生産される、からむしという植物の繊維を素材として用いた織物で、吸湿性・速乾性に優れている。



(写真左：佐原さん、写真右：島村さん)

からむし織研修生

さわら かずは しむらら みお  
佐原 一葉さん 島村 美緒さん

村の暮らしとともに歩む  
「昭和からむし織」

【佐原さん】

「道の駅からむし織の里しようわ」でのコースター織体験がきっかけで、からむし織に興味を持ちました。元々、ものづくりへの興味があったことや自然の近くで生活したいとの思いから、からむし織体験生に応募しました。

からむし織は、畑仕事から糸づくりや織りなどの全ての作業に関わることが魅力です。その中でも、からむしの茎から糸を作るための繊維を引き出す「からむし引き」という作業は難しいですが、大事な作業だ





150個程度作れるようになりました。これまでの大堀相馬焼の作風は生かしながら、自分なりに研究した水色系の釉薬ゆうやくを使うこと、丸いフォルムをした柔らかい形とすること、筆で器に飛行機雲や入道雲を描くなどの最後のひと手間を加えることが自分の作品(空想窯)の特徴です。

将来的には、大堀相馬焼の窯元として独立して、自分で商売をしていきたいです。そして、県外への出張販売なども積極的にを行い、大堀相馬焼の販売を通して、浪江町の現状を多くのの人に知ってもらおうよう発信していきたいです。



ろくろ職人として、日々、ろくろと向き合い続けています。



セサリーなどの新たな作品作りにも挑戦しています。

また、作品のアイデアに生かせればとの思いから、県が実施しているものづくり人材の育成講座「ふくしまクリエイティブクラフトアカデミー」に参加しています。今まで気付けなかった第三者からの意見や、他の伝統産業後継者の話などを聞く機会が得られ、大変勉強になっています。

今後はSNSなどの情報発信や、個展や催事などで知名度を高める活動にも力を入れ、より多くの方々に二本松万古焼の存在を知っていただけるように、唯一の窯元として、これからも伝統を継承していきたいです。



器に陶印で模様を付けます。

さまざまな模様の陶印は手作りしています。



と感じています。

4年目になりますが、まだまだ技術を習得したとは言いきれませんが、ですが、これまでの経験を生かして、昭和村のからむし織に貢献していきたいと思っています。

#### 【島村さん】

編み組細工を取り扱う店に勤めていた時に、昭和村や織姫制度のことを知りました。県外出身で縁もゆかりもない福島県の昭和村に来ることに多少の不安はありましたが、興味のほうが勝りました。

からむし織の作業一つ一つが、村の暮らしや季節と密接につながっていて、そこにすぐく魅力を感じます。

全ての作業に難しさを感じますが、一番長い時間をかけて取り組む芋績お芋みという糸作りの作業は根気が必要となる大変な作業です。

3月に、体験生と研修生の作品展を予定していますので、それを成功させるように頑張りたいです。



冬期間はからむしの繊維から糸を作る作業「芋績」に取り組んでいます。